



市長と

車座トーク

第18回 西学区（概要）



開催日時 2017年（平成29年）4月21日（金）

19:30～20:45

開催場所 西公民館

参加者数 12人

次第 市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



<車座トークでの主なご意見>

- ・同じ目的をもつ組織（明るいまちづくり協議会，まちづくり推進委員会，町内会）の簡素化ができないか。
- ・町内会加入について，マンション入居者と学区町内会の考え方をお互い話す機会を持ち，理解し合いたい。何が共通点で何が不利益か。そういうところを組み合わせる中で意見交換が少しでもできるのではないか。
- ・町内での女性会活動はするが，学区女性会は脱退するという女性会が3分の1くらいある。敬老会を女性会で世話をすることが難しくなってきた。他市では敬老会の行事自体を廃止しているところもあるらしい。市の今後の考え方を教えて欲しい。
- ・学区内にあるR i Mの空きスペースを学区全体が集まるスペースにして欲しい。さらにケアセンターに協力してもらい，その場で健康診断や健康体操等をすれば人も集まり，活性化するのではないか。

- ・学区内にあるR i Mに「こども園」があればいいと思う。小さい頃から地域の人と触れ合い、親世代が安心して仕事に行くことができ、安心して暮らしていけるのではないかなと思う。
- ・昨年の水害について、現在瀬戸川の下流で対策工事をしているが、水位をもっと下げないといけないと思う。水位が高いためポンプが機能していない状態。ポンプも老朽化が進んでいるため容量を大きいものに変えるか、水の排出先を芦田川にしてもらえればいいのか。瀬戸川の水位が上がると佐波町内の水が瀬戸川へ出せないだけでなく、芦田川から逆流するような状態になるので、樋門をつけて汲み上げポンプをつければ被害がなくなると思う。
- ・福山城を伝統的な工法で木造にしてもらいたい。今のお城も老朽化が進む。市民もお金を出してもいいよというような声も聞く。市民の3分の1ぐらいが出せば、市の負担も大きくなることはないのではと思う。
- ・学区まちづくり推進委員会には、福山城と西の字を使ったロゴマークがある。このマークを煎餅にもプリントし学区のPRをしている。また、学区のホームページがあり、まちづくりの行事を掲載している。「わが町の発表会」の場で「安心・安全の取組」について、発表をした。「西学区の知つとる検定」もある。公民館の敷地内にツリーハウスがあり、福山城も見える。
- ・公民館の隣にある聴覚障がい者地域活動支援センターは、9年目になる。地域行事にも地域の協力を得て参加できている。要望しているが、「手話言語条例」を制定して欲しい。手話を皆さんにも理解していただくためにも制定してもらいたい。
- ・中学校の保護者が弁当を作っていることに驚いた。義務教育中は給食だと思っていたので、早いうちに中学校給食をお願いしたい。(市外から転入された方の発言)
- ・西小学校の高学年のあいさつは素晴らしい。また、昨年の水害のときに校長先生が神島橋を渡って迎えに来てくれた。地域の高齢者も毎朝登校班を小学校まで送り届けてくれる。町内会に加入したくなかったが、地域の方に良くしていただき、可愛がっていただいて、家族のようにしてくれる環境があるため、今では地域の行事に積極的に関わり楽しくさせてもらっている。
- ・登校班のリーダーをやっている。毎日のように地域の方が見守ってくれ、すごくうれしい。顔を見るだけで「地域の人だ」と分かる人が多い。運動会でも競技をしている人を見て、「あ、あそこの人だ」「あ、〇〇のお母さんだ」と顔を見てわかる。あいさつも元気な声でできるし、本当に見守りはありがたいと思う。
- ・将来の夢のひとつに「将棋のプロ棋士」というものがある。放課後に地域の人が将棋の対局指導に来てくれる。とても優しく、指導してくれて嬉しい。
- ・最近「少子高齢化」という言葉が出てくるが、子どもが減って高齢者が増えるという意味らしい。入院費が高くて子どもが産めない人がいるようなので、もっと入院費等が安くなったら安心して子どもが産めるのではないかな。

<市長のまとめ>

- ・町内会などの加入率の低下は、どの地域でも課題になっている。地域のコミュニティづくり、担い手の確保の難しさの話を伺った。行政も地域もしっかり踏ん張って「地域コミュニティ」を守っていく取組をしていかないと、福山が自慢にしてきた「協働のまちづくり」という大き

な自慢・看板が薄れてしまうという危機感を持っている。

- ・紹介したいのは、川口東学区の「子どもまちづくり委員会」の取組。子どもがまちづくりについて議論をし、テーマを決めて取り組んでいる。それを見ている大人達が「子ども達がそうやって地域を考えているのに、大人も協力しないわけにはいかない」と大人が子どもに引きずられる形でまちづくりのために活動をして、結果、町内会への加入につながる。といった事例。是非家庭でも考えていただきたいと思う。
- ・もうひとつの事例は、マンションごとに新しく町内会を作るといった取組。マンション入居者に既存の町内会へ加入してもらっても、生活スタイルの違いなどで、なかなか同じ行動を取りづらい。そこでマンションはマンションでまとまるというやり方もある。マンションの売り主に町内会から入居が始まる前に協力を依頼し、それを受けた売り主もいる。こういった形でマンションの町内会加入率を維持していきたいと思っている。
- ・敬老会というのは、やはりなくすわけにはいかないと思っている。また、祭りも高齢者と孫につながる場であり、とても重要と思う。高齢者と孫の姿を見て、保護者世代が、「家族を大切にしないといけないな」と思う。
- ・R i Mを高齢者の活動の場にすることや、健康対策や検診等ケアセンターとの連携についても考えてみたい。
- ・今津学区、手城学区や長浜学区など、地域のボランティア活動の維持に良い成果を出しているところがある。自分達の学区の特徴ある取組を何にするのかを議論している。例えば、自然環境でホタルを育てる、ゴミをなくそう、新たなキャラクターを作ろう、防災など、新しい取組でみんなの意識が共有されれば、自ずと「一緒になってがんばろう」となる。そういう新たなテーマを作った取組を紹介したい。
- ・これからの駅前には「学ぶ」という機能があってもいいのではないかと思う。高齢化社会、少子化社会、そういう中でそこに集まって何かを行う中に、「学ぶ」というものがあるのもよいと思う。大学生や専門学校生が学ぶという場であってもよいし、小さな子どもと保護者が触れ合う、幼稚園とか保育所などの場であってもいいと思う。働く保護者が子どもを預けて電車とバスに乗っていく、そういう便利な子育て機能があればいいというような思いを持った。
- ・認定子ども園は、今年度中に22になる。2018年度には10数か所増える。企業には企業内保育所という形で、働き方改革の一環として子どもを預かるというような機能をこれから作ってほしいと思う。東京などでは、公園の中に保育所や幼稚園ができるといった規制緩和の取組が始まっている。様々な新しいタイプの保育の場、子育ての場を考えていきたい。
- ・昨年の水害があった後、国・県・市で検討委員会を立ち上げた。県と市で役割分担をして、今年の6月までにできることを、短期の対策と中・長期的にやるべき対策に分けて瀬戸川流域の防災対策を整理した。ポンプ対策として、県が川底を掘削して川に流れる水の容量を増やしている。
- ・市は全体の浸水のシミュレーションをする中で、溜まった水を氾濫させることなく瀬戸川に排出するか他のところに排出するか、問題意識を共有しながらやっているということで一定の評価はいただいていると思う。これからの雨の時期にぬかりのないように緊張感を持って取

り組む。

- ・福山城について、まずは耐震診断をしようと思う。その結果によって、耐震補強しながら今の城を使うという選択肢と、建て替えるという選択肢がある。建て替えの場合は何年までに建て替えるかを市民の皆さんの意見を聞きながら整備していきたい。
- ・これから学区で徐々に「交流館」を作っていく。西公民館のような素晴らしい公民館が、今度は新たにどういう名前になるのか、「交流館」という名前になるのかわからないが、各学区にできていくと思う。
- ・市でも昨年11月に全国の手話言語市区長会へ入会した。この手話言語をもっと多くの人が知って、大切なものとして、そして普通の言語として受け止める一歩を踏み出した。条例の制定については色々考えている。もう少し時間をいただきたいと思う。
- ・福山の子どもはあいさつができる、ということは福山の自慢。大人もあいさつをしている。そういう親の姿を子どもが見ているのではないか。もちろん学校の指導も良いと思う。
- ・中学校給食は、全体計画を作る。市内で中学校給食の完全実施をするということ。一度に全部はできないので順番をつけてやる。中学校給食で温かいご飯を子どもに食べてもらうことも重要、保護者手作りの食事を食べることも子どもにとっては嬉しい。そういうことも一緒に考えながら完全実施を進めていきたい。
- ・放課後児童クラブは、小学校6年生までを対象に実施していきたい。ただし見守ってくれる、担当している人が必要で、相当な数の先生を確保しないといけない。しばらくは試行錯誤が続くと思うが、計画が実現するようがんばりたい。
- ・子どもが大人を信頼しているということはとても素敵なこと。そう思ってくれるから大人達は子どもを「宝物」と思える。福山に子どもと大人のいい関係があるのだなと感じる話。ありがとうございました。
- ・福山市で初めてプロの棋士が誕生した。夢に向かってがんばって欲しい。「夢」というものは見ないと、夢を見る人じゃないと夢は実現しない。夢を見るということは素晴らしいと思う。
- ・「少子高齢化」という中でも、福山が活力を失わないように、子どもの声がいつまでも絶えないまちにしていきたい。そういう意味で色々な支援の仕方があると思う。たとえば医療費の助成をして子育て世代の負担を減らすというのもひとつのやり方。福山は既に一部助成をしているが、もっと助成を、という要望はある。これは引き続き考えていきたい。中学校給食実施というのも子育て家庭の負担軽減のひとつ。色々なやり方をしながら子育てを支援していく。

<地域からのあいさつ>

今日はこういう機会を作っていただいてありがとうございました。地域住民として色々な悩みを持っていて、それをどう解決していくかという課題はあるが、今日の話の中で、例えば運動会で地域住民と触れ合いがあるという話を聞いて、大変嬉しく思った。地域行政という中で言うと、憲法や地方自治法という法律で規定されているという実態があるが、あくまでも市民が主人公であるということを踏まえながら、行政との連携を図って、より良い、住みやすいまちづくりにつなげていきたいと思う。